

政治学の基礎		単位数	履修方法	配当学年
		2単位	R or SR	1年以上
科目コード	AH1026	担当教員	長谷川 雄之	

■科目の内容

本科目では、私たちが日々の生活を送るうえで、必ずと言っていいほど向き合っている政治 (Politics) を理解するために、政治学 (Political Science) を基礎から学びます。政治学は、例えば、少子高齢化や東日本大震災からの復興といった諸問題に対して、現在、国がどのような政策を採用しているのか、そして、その政策がどのように立案・決定されているのか、という点を論理的かつ実証的に説明します。本科目は、その第一歩として、政治制度、民主主義の理論、政党制、政治史、政策過程などの基本事項を学びます。また、流動的な国際社会の動向を的確に把握するため、国際政治学もあわせて学び、外交・安全保障政策に対する理解を深めます。

■到達目標

- ・近現代における国家の役割の変容について、「夜警国家」及び「福祉国家」という言葉を用いて簡潔に説明することができる。
- ・市民革命を経て成立した近代国家の基本理念について、「立憲主義」、「国民主権」及び「権力分立」という言葉を用いて説明することができる。
- ・西洋における自由主義思想の発達について、「自然権」及び「社会契約説」という言葉を用いて説明することができる。
- ・日本の議院内閣制とアメリカの大統領制について、それぞれの政治制度の特徴を簡潔に説明することができる。
- ・政策過程について、政策ステージとアクターの関係に言及しながら、簡潔に説明することができる。

■教科書

中村昭雄著『基礎からわかる政治学（増補新装版）』芦書房、2014年

■在宅学習15のポイント

(第6、7、10、22、23章は対象範囲としません。)

回数	テーマ	学習内容・キーワード	学びのポイント	教科書の対応箇所
1	政治とは何か？ 【教科書 第1章】	代表的な政治の定義を紹介しつつ、「政治とは何か？」という基本的な問題を考える。 キーワード：政治の概念、権力、支配の手段、公共の福祉、小さな政府、大きな政府	政治の概念は、多義的であり、分かりにくいものですが、先ず3つの大きな分類を確認し、その次に4人の著名な学者の定義を読むことで、理解が深まります。また、「小さな政府」や「大きな政府」、「夜警国家」、「福祉国家」という言葉は、この後の回で何度も出てきますので、ここでその意味を確認しましょう。	第1章 政治とは何か
2	「政治学」の発展 【第2章・第3章】	古代から現代に至るまでの政治学の発展過程を学び、伝統的政治学と現代政治学の違いを理解する。 キーワード：自然権、社会契約説、伝統的政治学、現代政治学、シカゴ学派、ポリアーキー、新制度論	ここでは政治学の発展について、大きな枠組みで理解することを目指します。第2章と第3章は密接につながっていますので、連続して読み進めると理解が深まります。キーワードのうち、とくに「自然権」「社会契約説」について説明できるようにしておきましょう。	第2章 政治学の歴史 / 第3章 行動論的政治学とその発展
3	政治権力と支配の正当性 【第4章・第5章】	強制力という観点から、権力の基本的な定義を整理した上で、支配の正統性について3つの分類を用いて学習する。 キーワード：警察力、強制力、合法的支配、伝統的支配、カリスマ的支配	具体的な例を挙げてみると理解しやすくなります。例えば、政治権力の箇所では、公権力を行使する警察官、カリスマ的支配の箇所では、歴史上の登場人物であるヒトラーやスターリンに対する個人崇拜など具体的な事例を念頭におくと、理解がより深まります。	第4章 政治と権力 / 第5章 支配の正当性
4	「民主主義」とは何か？ 【第8章・第9章】	政治思想とイデオロギーに関する基本事項を整理した上で、民主主義(democracy)という言葉の様々な側面について学習する。 キーワード：王権神授説、社会契約説、信託、抵抗権、イデオロギー、自由民主主義、参加デモクラシー論	政治思想の箇所では、とくに「社会契約説」の成り立ちについて説明できるようにしましょう。また、現代の主要なイデオロギーについて、形成過程を整理した上で、それぞれの主張を簡潔に説明できるようにしましょう。民主主義の発展過程については、自由主義との関係に注目して学習すると理解が深まります。教科書にもある通り、民主主義という言葉は多義的ですが、この機会に「民主主義とは何か？」考えてみましょう。	第8章 政治思想とイデオロギー / 第9章 デモクラシーの理論

回数	テーマ	学習内容・キーワード	学びのポイント	教科書の対応箇所
5	立憲主義と議会政治 【第11章・第12章】	<p>近現代における議会政治の発達過程を学び、近代国家の基本理念（とくに立憲主義と権力分立）を理解する。</p> <p>キーワード：市民革命、議会政治の三原則、立憲主義、法の支配、権力分立</p>	<p>西洋において議会制が発達する過程を市民革命という言葉を用いて説明できるようにしましょう。また、昨今話題となっている「立憲主義」や「法の支配」といった言葉の意味を正確に説明できるようにしましょう。さらに、一院制と二院制の短所と長所を整理し、日本の議会制度について考えてみましょう。</p>	第11章 近代国家と議会政治 / 第12章 近代国家の政治原理
6	日本と諸外国の政治制度 【第13章】	<p>主にイギリス・日本における議院内閣制とアメリカ型の大統領制、フランスの（半）大統領制について、それぞれの発展過程及び制度的特徴を学び、日本と諸外国の政治制度について理解する。</p> <p>キーワード：議院内閣制、立憲君主制、大統領制、第五共和制、三権分立、連邦制、抑制と均衡、衆議院の優越</p>	<p>各国の政治制度について、それぞれの制度的特徴を説明できるようにしましょう。まず、アメリカ、フランス、イギリスの政治制度について整理しましょう。その際、「厳格な三権分立」、「抑制と均衡」、「大統領の権限」、「国王は君臨すれども統治せず」などが特に重要なキーワードとなります。その上で、日本の政治制度について学習すると、より理解が深まります。</p>	第13章 主要諸国の政治制度
7	官僚制と行政国家 【第14章・第15章】	<p>行政政府の拡大にともなう「行政国家化現象」を理解した上で、現代の官僚制の特徴を学習する。</p> <p>キーワード：福祉国家、行政政府の優位、議会政治の危機、管理社会、個人情報、監視社会、M. ウェーバー、省庁間対立</p>	<p>「行政国家」について、「揺り箒から墓場まで」「消極政治から積極政治への転換」「福祉国家」「公共事業」といったキーワードを用いて説明できるようにしましょう。また、官僚制の基本事項について、教科書で紹介されている M. ウェーバーの概念を整理した上で、日本の官僚制の問題点を考えてみましょう。</p>	第14章 現代の行政国家 / 第15章 現代社会と官僚制
8	議会における立法過程 【第16章】	<p>アメリカ・イギリスの議会制度を概観した上で、日本の国会における立法過程を詳しく学ぶ。</p> <p>キーワード：委員会中心主義、本会議中心主義、内閣法制局、党議拘束、自由投票</p>	<p>「委員会中心主義」や「本会議中心主義」、「党議拘束」、「自由投票」といったキーワードについて説明できるようにしておきましょう。日本における内閣提出法案の立法過程について、「内閣法制局」の果たす役割を理解した上で、法案が国会に提出される前と提出後の流れを説明できるようにしましょう。</p>	第16章 議会と立法過程

回数	テーマ	学習内容・キーワード	学びのポイント	教科書の対応箇所
9	選挙 【第17章】	選挙の基本原則を理解した上で、選挙制度の類型を学び、それぞれの制度問題点を把握する。 キーワード：選挙の基本原則、多数代表制、小選挙区制、少数代表制、大選挙区制、比例代表制、選挙公約	先ず選挙の基本原則（5つ）について、それぞれ説明できるようにしておきましょう。それぞれの選挙制度については、教科書の表14及び表15を参考にしながら、長所と短所を整理して学習し、それぞれの制度の問題点を指摘できるようにしておきましょう。	第17章 選挙制度
10	政党と政党制 【第19章・第20章】	「政党とは何か」を理解するために、政党の成立条件、機能、存立要件を整理する。その上で、政党政治が展開される枠組みである政党制について学習する。 キーワード：政党の成立条件、政党の機能、政党の存立要件、政党制の分類、55年体制	概念的で難しい回ですが、左記のキーワードについて、それぞれ説明できるようにしてきましょう。政党制については、G. サルトーリの分類を参考に学習を進めましょう。現代日本の政党制について記述した箇所を先に読むと、理解が深まります。	第19章 現代政治と政党 / 第20章 政治社会と政党制
11	圧力団体と市民運動 【第21章】	圧力団体が発生した背景を整理した上で、それがアメリカ社会で果たしてきた役割を理解する。市民運動・住民運動について、圧力団体との類似点・相違点を把握しながら、その意義を考える。 キーワード：圧力政治、福祉国家、ロビイング、参加デモクラシー	圧力団体が発生した背景について、教科書で示されている5つのポイントを整理しましょう。また、アメリカにおけるロビイングについては、教科書の表19を参考にしながら学習を進めると理解がより一層深まります。	第21章 圧力団体と住民運動

回数	テーマ	学習内容・キーワード	学びのポイント	教科書の対応箇所
12	マス・メディアと政治 【第24章・第25章】	<p>マス・メディアがもつ政治的効果について、いくつかの既存研究を紹介しながら学習し、それが選挙や世論形成において果たす機能を理解する。その上で、現代の大衆社会における様々な問題点を明らかにする。</p> <p>キーワード：コミュニケーションの二段階の流れ、課題設定機能、沈黙の螺旋モデル、大衆社会、多元的社会、政治的無関心、世論の政治</p>	<p>まず、第25章冒頭で「大衆社会とは何か」を確認しましょう。その上で、左記のキーワードについて、それぞれ説明できるようにしておきましょう。既存研究における理論については、具体的な事例（例えば、「郵政選挙」、「アベノミクス解散」など）を念頭におくと理解が深まります。</p>	第24章 政治的コミュニケーション / 第25章 大衆社会の政治
13	日本政治 【第26章】	<p>日本政治（史）について、主に議会、選挙、地方政治といった制度的観点と政治文化の観点から学問的に理解する。</p> <p>キーワード：日本国憲法、中選挙区制、55年体制、小選挙区制、日本の圧力団体、中央省庁再編</p>	<p>実践的な内容の第14回に備えて、第13回では、その事前準備を行います。これまでと重複する箇所もありますが、もう一度、日本政治の基本的なシステムについて整理し、理解を深めましょう。</p>	第26章 日本の政治
14	政策過程の分析 【第18章】	<p>立法政策について学習した上で、政策過程の5つのステージとそれぞれのステージに関与するアクターを整理し、日本の政策過程について理解を深める。</p> <p>キーワード：政策研究、立法政策、政策過程の5つのステージ、諮問機関、意思決定</p>	<p>第1回目から第13回目までに学んできた政治学の基本事項を活用して、政策過程について学びます。この回が終わった後、新聞やインターネットで今話題となっている政府の政策について、どのように立案・決定・実施されているのか、学問的に説明することにチャレンジしてみましょう。</p>	第18章 政策と政策過程
15	国際政治 【第27章】	<p>国際政治・安全保障の基礎を学び、冷戦終焉後の国際社会が抱える様々な問題について理解を深める。</p> <p>キーワード：主権国家、グローバリゼーション、勢力均衡、軍備拡張競争、国際連合安全保障理事会、国連憲章、PKO、地域紛争</p>	<p>流動的な国際情勢について理解を深めるためには、国際政治の基礎知識が不可欠です。まずは左記のキーワードについて説明できるようにしておきましょう。国際連合の機能は多岐にわたりますが、図25を参考にしつつ、主に安全保障理事会の機能について学習しましょう。</p>	第27章 国際政治

■レポート課題

1 単位め	以下の三つの設問について、いずれか一つを選択し、答えてください。 ① 近現代における国家の変容について、次のキーワードを必ず用いて論述してください。 キーワード：「夜警国家」、「福祉国家」、「揺り籠から墓場まで」 ② 近代国家の基本理念について、次のキーワードを必ず用いて論述してください。 キーワード：「立憲主義」、「名誉革命」、「法の支配」、「権力分立」 ③ 社会契約説について、次のキーワードを必ず用いて論述してください。 キーワード：「王権神授説」、「自然権」、「信託」、「抵抗権」
2 単位め	以下の二つの設問について、いずれか一つを選択し、答えてください。 ① 政策ステージとアクターについて、次のキーワードを必ず用いて論述してください。 キーワード：「5つのステージ」、「政策決定」、「官僚」、「フィードバック」 ② ニュースなどで取り上げられている日本政府の様々な政策（例えば、「議員定数の削減をめぐる国会の制度改革」や「TPP（環太平洋パートナーシップ）協定をめぐる通商政策」、「少子化対策のための子育て支援等の社会保障政策」、「集团的自衛権の行使容認をめぐる安全保障政策」等々）の中からお自身で一つの政策を選び、本科目で学んできた政治学の知見を活かしつつ、その政策について論述してください。

■アドバイス

政治は、私たちの日々の社会生活と深く関係しています。日ごろからインターネットやテレビ、新聞を通じて政治の話題に関心を持ちつつ、学習を進めてください。その際、うわさ話や不確かな情報、感情論に左右されず、より正確な事実関係を確認し、政治学の知見を活かして、批判的かつ客観的に物事をみるよう心掛けてください。より正確な事実関係を把握するための手段として、例えば、法令や国会の議事録などの一次資料の使用が挙げられます。最近では、インターネット上の法令や議事録のデータベース、各省庁ホームページの資料も充実してきましたので、引用の方法（下記）に注意しながら積極的に活用しましょう。

各回の学習については、「在宅学習15のポイント」で挙げたキーワードに注意しながら、教科書を読み進めてください。重要なキーワードについては、教科書のほかの章にも出てきますので、教科書本文を中心に、原典紹介、コラム、資料などを利用して、意味を説明できるようにしておきましょう。とりわけ、レポート課題の1単位目に関係する、本科目の第1回目から第7回目までは、「立憲主義」や「法の支配」、「権力分立」といった極めて重要な概念を扱っています。さらに、「小さな政府」や「大きな政府」、「行政国家」といった概念は、今後、社会福祉の学習を進めていく上で、必ず理解しておかなければなりません。

また、下記の参考図書に限らず、積極的に図書館等で関係する文献を探し、レポート作成の際に活用してください。参考文献の探し方については、『学習の手引き（平成27年度以降入学者用）』の231頁から235頁を参照してください。参考文献を用いる場合、『学習の手引き（平成27年度以降入学者用）』の182頁から183頁を必ず読んで、適切に使用してください。とくに、インターネット上の情報については、情報の信ぴょう性のチェックは勿論のこと、URLとアクセス日を明示するなど、基本的なルールを確認しましょう。

例) 国会会議録検索システム (<http://kokkai.ndl.go.jp/>)【2015年12月8日アクセス】

1 単位め
アドバイス

主に前半部（第1回から第7回）から出題していますが、いずれも科目全体を通じて理解しておく必要のある極めて重要な内容です。設問①②③の中から一つを選んで答えてください。設問は、いずれも指定されたキーワードをすべて使う必要がありますので、教科書や参考図書などでその意味をしっかりと確認した上で執筆してください。

【設問①】

この設問は、社会保障費の削減と介護の現場の人手不足など、身近な社会問題と非常に深く関係しています。（教科書）本文以外にも、379頁から381頁の資料や下記の参考図書⑨などが執筆の上で参考になります。

【設問②及び③】

これまでどのような歴史を経て、現代の民主主義国家が存在するのかを理解する上で欠かせない知識を問うものです。（教科書）本文以外にも、107頁から108頁の原典紹介（12）と（13）、152頁の原典紹介（17）、さらに下記の参考図書③などが執筆の上で参考になります。また、設問②では、「立憲主義」や「法の支配」といった最近話題のキーワードも含まれていますので、図書館や書店などで気になった本を手にとって、どのようなことがいま話題となっているのか確認してみましょう。

1単位目では、キーワードの意味について、正確に理解しているか、という点が評価の最大のポイントとなります。とくに「到達目標」と「在宅学習15のポイント」の「学びのポイント」の箇所で挙げた重要なキーワードについては、何度もその意味を確認しましょう。

【設問①】

2 単位め
アドバイス

設問①は、第14回を中心に後半部から出題しています。政策過程を分析する上で、欠かせない知識を問う問題ですので、再度、教科書第18章を一通り読みましょう。その上で、「5つのステージ」、すなわち「課題設定」、「政策立案（政策形成）」、「政策決定」、「政策実施」、「政策評価」等のキーワードについてそれぞれ説明できるようにしておきましょう。政策過程に関与するアクターについては、教科書297頁のコラム（27）や382頁の資料（20）も参考になります。

【設問②】

設問②は、ご自身でレポートの課題設定（レポートで取り上げる政策の選択）を行う応用問題です。課題設定のために日ごろからインターネットや新聞などでニュースをチェックしておきましょう。課題設定に際して、本科目の各回のキーワードの意味をもう一度確認し、身近なニュースと照らし合わせて、具体的にどのような事例があるか、考えてみましょう。そうすれば、おのずと政治学的な知見がご自身のレポートで活かされるようになります。執筆に際しては、政策に対する様々な見解について調べ、論理的かつ客観的な視点を常に持ち、単なる感情論にならないよう十分に気をつけましょう。この点が評価の際に最も重要なポイントとなります。

また、レポートを書き始める前に、その書き方を学ぶ必要があります。先ず『学習の手引き（平成27年度以降入学用）』の34頁から37頁にある『レポートの書き方』をじっくりと読みましょう。

■科目修了試験 評価基準

- ・設問の内容を理解し、論理的に答えることができているか。
- ・キーワードの意味について、正確に理解した上で、論述がなされているか。（とくに「科目の到達

目標」と「レポート課題1単位目」で列挙したキーワードは必須です)

- ・客観的な視点を持ち、設問に取り組んでいるか。
- ・参考図書を用いる場合、その引用方法が適切であるか。

■参考図書

【政治学】

- ①辻中豊『政治学入門－公的決定の構造・アクター・状況』放送大学教育振興会、2012年
- ②久米郁男ほか『政治学（補訂版）』有斐閣、2011年
- ③宇野重規『西洋政治思想史』有斐閣、2013年

【日本政治】

- ④薬師寺克行『現代日本政治史－政治改革と政権交代』有斐閣、2014年
- ⑤中北浩爾『自民党政治の変容』NHK出版、2014年

【国際政治】

- ⑥中西寛ほか『国際政治学』有斐閣、2013年
- ⑦細谷雄一『国際秩序－18世紀ヨーロッパから21世紀アジアへ』中央公論新社、2012年
- ⑧植木千可子『平和のための戦争論－集団的自衛権は何をもたらすのか？』ちくま新書、2015年

【福祉】

- ⑨宮本太郎『福祉政治－日本の社会保障とデモクラシー』有斐閣、2008年

■その他

教科書ではあまり触れられていない外交・安全保障分野は、政治学における最も重要な分野の一つです。スクーリングでは、東アジアの安全保障環境、日本版 NSC（国家安全保障会議）、自衛隊の統合運用、ウクライナ情勢、ロシアの戦略環境認識など、喫緊の動向も交えながら、外交・安全保障分野についても詳しく解説します。詳細は『試験・スクーリング 情報ブック』を参照してください。